

SASUKE LIBRARY  
町立  
指江図書館  
TEL0996-88-6500



家賃の安さにひかれ東京から和歌山の山奥に移住。田舎暮らしの理想と実現を紹介します。

浅井 建爾 著

田舎暮らしはじめました

TAKANOSU LIBRARY  
町立  
鷹巣図書館  
TEL0996-86-1111



クラスの人気者の「ひみつ」をさぐるべく、帰りに尾行をしよう主人公。そしてわかった「ひみつ」とは？

森 絵都 文

にんきもののひみつ

図書館においてある最新本の中からおすすめのことをピックアップ。バラエティに富んだ新刊をご紹介します。

新刊紹介

町立図書館おすすめ

Pick Up New publication

# 長島 文芸

Nagashima Bungai  
ながしまぶんげい

## 明神俳句会

海の日の見慣れし海の大きかり  
二階堂妙子  
田水沸く猫の額の地にすがり  
淵脇 護  
梅干して風の動かぬ狭庭かな  
迫口 君代  
田水沸く傍に立つ石仏  
関 佳代美  
置き去りの砂場の玩具や炎天下  
山寄加代子  
梅雨あけや出荷待つ鶏奇声あぐ  
大堂 早苗  
歓声としぶきを上げて海開き  
中橋 藤七  
梅雨明けの慟哭の牛葬りて  
筑前 初市

## 長島短歌会

闇の夜に降る雨音は耐へ難し灯りをともし夜明けを待ちぬ  
吉田 映子  
診療を待つ間にわが見る薔薇の絵は滴る露も描きてありぬ  
市尾 操  
爪ほどの小さき蟻はうごめて茹ずれば宿借りは赤き手を出す  
岩下 ち江  
夕眺め墨絵の如き天草に灯台の灯の光ゆらめく  
岩下 房代  
川の辺に咲き盛りぬし梔子の青き実となり雨に揺れをり  
米尾 和子  
宵山に灯る逆鉾見上ぐれば揃ひ浴衣の男衆笛吹く  
坂之下典子

大雨を気にする我と裏腹に寝息顕わな椅子上の母  
中山タマエ

廻り来る季節の早さに幾鍋も客に供する心太を焚く  
浜田美代子

細き身でひたすら生まんと耐へし孫すなはち曾孫の黒髪を抱く  
浜畑 松枝

久しぶり梅雨の晴れ間を惜しみつつ荒磯に釣る魚十五匹  
林 ヒロ

海へだつ丘より月は冴へをりて煌きながら波動するどし  
本田 幸子

肩抱きて励ましくれたる日も遥か姉を見舞へば誰かと問ひぬ  
松元 睦子

梅雨明けの空澄み渡り平穏な明けと想へど気になる気温  
町田キクエ

## 一般作品

### 俳句

(京都にて)

路地路地に児らの下駄音地藏盆  
笹元 政美

移り来て紫陽華に灰降る街  
宗方 正喜

### 短歌

何事も思い込むなら毒になる我が身大切成るしかならぬ  
町田 末則

娘も孫も木蔭の下に相ひ寄りて亦を約すも吾れ八十路過ぐ  
鶯出 成人

「お婆ちゃん」の響きのいつかほほ笑まし若つくりして鏡に映し  
中仮屋辰子